

## ■：言葉学

言葉は全ての土台。勉強の面でも、生きるという意味でも。「はじめに言葉があった」は有名な聖書の一節。ある程度の文法知識は、英語でも役に立つ。また、しっかり文章から情報が得られると、他教科の理解の効率も格段に上昇する。

国文法の品詞は10種類（一動詞・形容詞・形容動詞・名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞）。だけど、ややこしいし、そこまでの精密さは国文法の問題でしか問われないのでパス（国文法の問題は中学入試や高校入試が主戦場）。下記の6種で考える。

### 【見るべき6つの項目】

#### 1. 主語 (S)：文章のメイン。

省略されているとき（＝文章の意味から考える必要があるとき）もある。

「○○は」「○○が」であることが多い。

#### 2. 動詞 (V)：主語が行う動作。

動詞がない文もある：英語でいう be 動詞の場合。日本語の述語との違いに注意。（↓国文法と英文法の違いを参照）

#### 3. 目的語 (O)：動詞の動作が直接向かう先。

「○○を」「○○に」であることが多い。ない文もあるし、2つある文もある。

#### 4. 補語 (C)：主語とか目的語の情報を補足する言葉。

修飾語1との違いに注意。ない文もある。

#### 5. 修飾語1 <Mn>：名詞に意味を足す。詳しく説明する。文章のような場合もある。

ex. 「昨日私が購入したまな板」の<昨日私が購入した>の部分が、まな板（名詞）を詳しく説明している＝形容詞的な役割をする。

#### 6. 修飾語2 (Mv)：名詞以外に意味を足す。詳しく説明する。文章のような場合もある。

ex. 「外に出たときに発見した」の(外に出たときに)の部分が、発見した（動詞）を詳しく説明している＝副詞的な役割をする。

### ※コメント

初めは、「3. 目的語」や「4. 補語」を、「5.」や「6.」の修飾語と判別してしまうかもしれない。1つの文章でもいろんな読み方ができるので、解答例の他に別の正解もあるかもしれない。だから、はじめは気にしないで大丈夫。どちらで取ろうと言葉の感覚的な違いでしかないと思っていてOK。英語を学んでいくと、3. や4. は判別したほうが格段に楽になるので、それはその時に。

【国文法と英文法の違いに注意】

(1) 「私は本を買います」を考える

○国文法の場合 「私は本を買います」

私は：主部 S (私：名詞＝主語、は：助詞)

本を：目的語 O (本：名詞、を：助詞)

買います：述部 V (買う：動詞、ます：助動詞)

○英語の場合 「I buy a book.」

I：主語 S = 私は

buy：動詞 V = 買います

a book：目的語 O = 本を

※コメント

・語順は違うが、基本的にはそれぞれの語が対応していて分かりやすい。

(2) 「私は学生です」を考える

○国文法の場合 「私は学生です」

私は：主部 S (私：主語、は：助詞)

学生です：述部 C (学生：名詞、です：助動詞) 動詞が無いので V ではない。

○英語の場合 「I am a student.」

I：主語 S → 私は

am：動詞 V → (×)

a student：補語 C → 学生

※コメント

- ・国文法には動詞が無くて、英語には動詞 (be 動詞) がある。1 対 1 で対応していないので違いを受け入れるのに時間が必要になる。
- ・「です」は丁寧語の表現なので、なくても問題ない。「私は学生」はぶっきらぼうだけど通じる。(日本語に無理やり当てはめた場合、V がない文章も存在する)
- ・日本語と英語はそもそも地域も文化も違うので、違って当然。むしろその違いを楽しむぐらいの楽しんでいくぐらいの余裕が欲しい。やらされるだけの勉強では一時的にしかな知識がつかないので、人生に渡って意味のある知識を付けていきたい。